

日時:2008年4月12日～2008年4月13日

山名:北アルプス

ルート名:白馬主稜

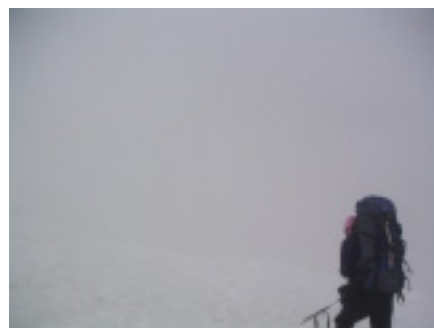
形態:雪稜

メンバー:谷嶋、迫、久池井(豊)、久池井(七)

報告:久池井(豊)

11日、金曜夜発で現地に向かう。先月から、太田桐生ICが開設されたおかげで50号からすぐに高速に乗れるので以前に比べて、グッと長野が近くなった気がする。二股のゲート前の駐車場に車を停めて、01:00 テントを張って就寝。

12日、05:00 に起きる。予報では、晴れのはずが曇っている。視界も良くない。そそくさと準備して、6:10 林道を歩き始める。舗装道路を登山靴で歩くほどかたつるいものはない。猿倉山荘の少し手前まで除雪してあり、そこからは、雪の世界へ。地図を見ながら白馬尻へ。早速、ラッセルを強いられる。相変わらず視界は悪く、雪もグサグサで重



天気予報では、晴れのはずが曇りで視界不良



い。地形的に自分たちの居場所がよくわからず、大休

ガスが抜け晴れて、眼下にはすばらしい景色が！

止をとって地図を広げて話し合っているところに、パーッとガスが流れて太陽が顔を出し、急に視界が広がる。たちまち、喚起があがり目の前に目標となる主稜線がみえる。10:00 八峰に向かって歩き始める。広大な斜面のなか、黙々とラッセルを行う。安心して休めるところもないのと、雪崩の危険性もあったので、頑張って4人で黙々とラッセルルートを切り開き、安全地帯へ。気がつけば、2時間以上も急斜面を登っていたことになる。休憩中、眼下に広がる景色と自分たちのつけたトレースを見つめる。そこを2つの後続パーティーが利用して登ってきた。ラッセルを交代してもらおうかなと思っ

たら、1 つはうちの数メートル先で大休止、もう1つのパーティーも数十メートル先で休憩。結局、その先から八峰手前まで、再びうちらでトレースをつくる。八峰は、雪の状態も悪いことから、



ここでハーネスをつけロープを出すことにして、

谷嶋さんがトップに行く。無難に乗越して、その後は、コンテで谷嶋・迫、

快適な稜線歩きを楽しむ

くっちーずで行動する。雪も十分にあり、草付はなく快適に進む。5・6 コルあたりで大休止。ここで、後続の2パーティーに先を譲る。5 峰手前でシュレントがあり、先行パーティーは苦労しているようだ。思わぬ、順番待ち。シマッタ！せつかく、ここまで自分たちでルートを切り開いてきたのに、譲ったばかりに、時間が無情にも過ぎてゆく。ここからは、くっちーずが先頭。5 峰を登りきると、先行パーティーが4 峰手前でまたもや梃子摺っている。どうも、2 番目のパーティーに先を譲ったようだ。時計をみると



15:40.そろそろテント設営のことも考えたくなる。先に進むにも、この順番待ちなら、ここでテント設営に時間をかけることが良いと判断して、リッジの一角を整地して、テント設営に取り掛かる。条件がよくないので、丁寧に雪を掘り、雪庇に気をつけながらテントを張る。

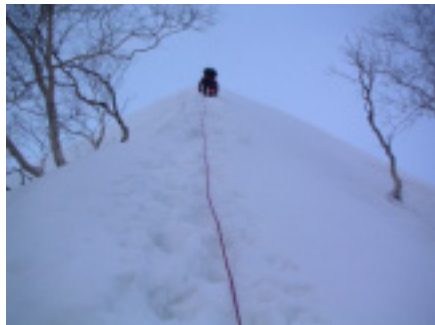
16:20 全員、テントに入る。まずは、コ

振り向けば、美しいリッジ

ーヒーで今日一日の出来事を話す。何よりも良かったのは、視界が悪かった

のが、急に天気が回復して暑いくらいに晴れて、無風であったこと。本当に天気に恵まれて山の神様に感謝する。ただ、残念だったのは、最後の最後でトップを後続パーティーに譲ってしまったこと。これには、谷嶋リーダーが人一倍悔しがり、明日の山頂には、雪庇を崩してトップに立つ！と宣言する。てなわけで、朝3時起床ということになる。おでんを食べ軽く一杯ひっかけて、そそくさと夕飯を食べ終え、食後のデザート&お茶を満喫したら、明日の天気予報をチェックして19:45 就寝。

13日、03:00 時間通り起床。テキパキと朝食を済ませ、テントをたたむ。外はまだ暗く、ヘッドランプの明かりだけが頼り。前方にも、チラッチラッとヘッドランプの明かりが見える。クソッ！先行パーティーも行動を始めたか。04:40 昨日と同じ組でロープを結び合い、アイゼンをつけてスタートする。昨日とうってかわって、雪も締まり、アイゼンがよく効く。時折、風が強いのと強烈なナイフリッジのため、ナイフリ



雪壁、雪稜を越えて目指すは頂上

ッジのトラバースの際、俺と七生を結んでいるロープが

宙に浮いた。2つの先行パーティーのうち1つは抜いたが、もう一つのパーティーの姿は見えるのだが、なかなか追いつくことはできず、結局は、そのまま行かれてしまった。

落ち着いて休憩する場所もないことからまとまって休むことはせず、各自のペースで三

峰、二峰と登る。最後のピッチは、谷嶋リーダーにお任せする。微妙に右側にトラバースするいやらしいルートだが、実質ロープの長さは25mほど。次に、七

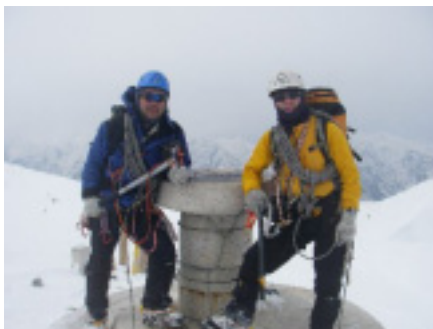


生、迫さん、俺の順で登る。

さあ、頂上はもうすぐ！

10:07 全員、頂上に立つ。

トップで登れなかったけど、充実感で心が満たされる。が、風も強いので小屋のところまで降りて、そこで大休止。やっと、みんなの顔に余裕が出て笑いもでる。あとは、大雪渓をシリセードで下り、またもや重い雪に足をとられながら猿倉山荘へ。空を見上げると予報通り、雲が山々を覆い始めた。それから、再び、かったるい林道を歩きながらも、フキノトウを採りながらゲートへ。15:20 無事に駐車場に到着。



頂上に着いて、下山の大雪渓はもちろんシリセード